

第1回町田市地域福祉計画審議会 議事録

日 時：2020年8月18日 19：00～21：00

会 場：町田市役所 3-1 会議室

出席者：

委員：宮城孝会長、佐藤繭美委員、増子達也委員、長崎敏宏委員、鯨岡健人委員（リモート）、中村伊佐夫委員（リモート）、町野眞里子委員、新井邦夫委員、安達廣美委員、森公男委員、村田隆行委員、陶山慎治委員、岡田栄委員、馬場昭乃委員

事務局：地域福祉部 神田部長

福祉総務課 吉本課長、三浦担当課長、土方係長、高橋主任、一面主事
㈱生活構造研究所 柏木氏、近藤氏

関係課：市民協働推進課 中坪課長、長谷川統括係長、渡辺担当係長、安達担当係長

町田市社会福祉協議会：中泊係長、佐々木主査、和田主任

傍聴人：0人

資 料：（委員には資料1、2、4～9を事前配付済み）

【資料1】町田市地域福祉計画審議会条例

【資料2】町田市地域福祉計画審議会委員名簿

【資料3】諮問書（写）

【資料4】地域福祉計画とは

【資料5】市民アンケート調査 調査結果概要

【資料6】町田市10地区の状況

【資料7】（仮称）地域ホッとプランの策定の方向性について

【資料8】地域を取り巻く現状について

【資料9】策定スケジュール

【資料10】第3次町田市地域福祉計画 2016～2019年度庁内の主な取組内容とその成果

【参考資料1】市民アンケート調査報告書

【参考資料2】（仮称）まちだ未来づくりビジョン2040基本構想素案

【参考資料3】第3次町田市地域福祉計画

【参考資料4】町田市社会福祉協議会 第四次地域福祉活動計画 地区活動計画

【参考資料5】町田市地域経営ビジョン2030～協働による地域社会づくり推進計画～

議 事：

1. 委員委嘱
2. 開会

(1) 委員自己紹介

(各委員 自己紹介)

(2) 会長及び職務代理選出

(3) 諮問

(4) 副市長挨拶

3. 議題

(1) 市民アンケート調査の報告について

会 長：議事次第に沿って進めてまいります。第1回ということで非常にたくさんの資料、データが皆さんのもとにっておりますので、特に今日は町田市の地域をめぐる課題であるとか地域福祉の今後の有り様、特に包括的な支援体制というところが一つ大きなポイントとなってきますので、そこは事務局からも説明があるかと思っておりますので、そのあたりの共通認識を少しでも進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、市民アンケート調査の報告について事務局より説明をお願いします。

(事務局 資料4～6説明)

会 長：それでは、今の事務局の説明について、ご質問、ご意見、ご感想等ございますでしょうか。では、私の方から一点補足で資料4の地域福祉計画とは、というところで裏面の地域福祉について特に社会福祉法第107条第1項の第1号ですね、共通して取り組むべき事項というところが16点、他分野との連携、制度の狭間、生活困窮、居住・就労、自殺防止、権利擁護、虐待、拠点整備、官民連携、役所内の体制整備など非常に幅広い、地域福祉計画の内容そして社会福祉法の中で規定されていることをまずはご理解いただければと思います。アンケート調査とかでの感想とかいかがでしょうか。

委 員：アンケート調査の調査項目はどういう意図で決められたのか教えてください。

事務局：調査目的として、市民の方の生活課題やニーズを計画策定の基礎資料として得ることを目的として実施したものです。

委 員：今の地域福祉計画の中で課題がありそうだというところをチョイスされたのか、新しい計画を作るために聞いておくべきと思うところを聞いているのかと、根拠とかどういう視点で今の地域福祉計画がさらに良くなるように意図をもって、質問を選んだかをお伺いしたい。

事務局：今回の策定は地域とどのように地域福祉を進めていこうかというところがポイントとなると思っております。世間では8050問題とかダブルケアですとか地域の課題がどんどん複合化しているということが言われているところで、果たしてその中で町田市が本当に複雑化・複合化しているのか、町田市の中でどうなっているのかが知りたいところでした。そのため、市民の困りごとの状況もこと細かく確認したいところで、今回困りごとの状況も

2項目以上とか3項目以上とかどういう組み合わせで困り事があるのかも確認したところです。

また、地域の福祉を進めていくには地域活動がたくさんあると思いますが、福祉の活動に入っていきには、いきなり入るのは抵抗があると思われる中で、地域の活動が素地として盛り上がっているところがあるのかどうかも、しっかりと状況を確認し、どうやったら、その活動を増やしていけるのか、そういった深いところまでも確認したところでもあります。また、冒頭でもお話しすればよかったのですが、前回の第三次計画の中ではアンケートは団体アンケートのみの実施であり、今回は団体アンケートではなく、地域に住んでいる皆様に地域の困りごとなり地域活動なりを生の情報をもらっていきたいということで団体アンケートから市民アンケートに変えています。

委員：アンケートを取るにあたりまして、かなり手間をかけて出されたと思うのですが、これからどういったまとめで各地区にどういった報告をされるのか、逆に暮らしやすさとかの満足度とか、一市民として町内会・自治会としましてもこれは非常に身に染みる調査となっている。途中で終わるのではなく、最後までアプローチをかけてやっていただきたい。このことに関しては出来る範囲の協力をしていかなければと思うところです。どういった形で市民の方におろしていく、報告していくのか伺いたい。

事務局：今回のこの策定の方向性を説明するにあたって、町田市の基本目標を策定するにあたって、安達委員にもご協力いただいたタウンミーティングをやって、地域のご意見を伺っている中で2040年のなりたい未来の意見をいただいたところでもあります。福祉総務課も協力する中で、福祉分野の意見もたくさんいただきました。タウンミーティング以外でも、無作為抽出のワークショップや地域福祉計画の中でも地区別懇談会を実施しており、たくさんのご意見をいただいているところです。今後の地区別懇談会の中でもたくさんのご意見をいただいているところと申しております。その中で、地域の方にご報告をいこうと思っております。その中で、地域の方にご報告をいこうと思っております。その中で、地域の方にご報告をいこうと思っております。その中で、地域の方にご報告をいこうと思っております。また、計画が出来上がった際には新しい計画のポイント、地域の方にご報告をいこうと思っております。また、計画が出来上がった際には新しい計画のポイント、地域の方にご報告をいこうと思っております。また、計画が出来上がった際には新しい計画のポイント、地域の方にご報告をいこうと思っております。

会長：特に私からも事務局にお願いしたいのは、この10地区の地区別のデータ、現状、それとアンケート調査の結果を地区別でクロスを取って、各地域で関心が高い、地域の特徴が出ていますので、事務局から説明ありましたようにタウンミーティングや地区別懇談会、また計画策定それぞれの地域の福祉課題へどう対応していくか、このデータをさらに分析しながら各地域でどのよう

に対応していくか検討していく材料になるのではないかと思います。

また、補足させていただきますと、一般市民の方の福祉に関する意識調査というのですが、資料 5 の 4 頁を見ていただいて、町田市ひきこもり状態にある方が 3.1%、これを私なりに 43 万人の人口にあわせてみますと、誤差はあると思いますが、13,300 人なんですね。その下の方ですが、20 代から 50 代が約 60%、約 7,700 人。ニートの状態にある方も 1/3 いらっしゃるということです。ひきこもり状態にある方が相当多い、全国調査でも、40 代が多いと言われてはいますが、町田市でも中長期的に引きこもっている方がいるという裏付けが取れたんじゃないかな、重要なデータが取れたんじゃないかと思えます。

また、相談支援体制に対する満足度は 25%であり、福祉サービスの情報、相談支援体制への要望が 5 割くらいあるということで、今回の地域福祉計画への要望・裏付けが取れたのではないかと思います。また、参考資料の 1 でかなり詳しいデータが出ているので、皆さん、次回までにご自分の地域を見ていただければ、と思います。

(2) 計画策定の方向性について

会 長：それでは次に、計画策定の方向性について事務局の方からご説明をお願いいたします。

(事務局 資料 7、8 説明)

会 長：それでは、今の事務局の説明について、ご質問ご意見等いかがでしょうか。

委 員：私は市の福祉に関する各部が横のつながりを持って是非やってもらいたいというのをずっと訴えてきたのですが、先ほど横断的にやっていただけるようなお話がありまして非常に嬉しく思っております。私たちが抱えている問題が非常に今単体でなく複合的な問題が多いですね、障がいの問題ですとか子どもの問題とか一つの問題じゃなくて解決するのが大変難しい、特にダブルケアや 8050 問題なんかで例を挙げますと 80 代の親御さんのところに 40 代 50 代の方がひきこもっている、そのひきこもりの事を障がい福祉課にご相談するとお医者さんにかかっているとこっちだけれど、かかっている場合は保健所に行ってください、となる。それで保健所に行ってもお医者様に是非身内の方が連れて行ってかかっていたきたいというようなお話がありまして、解決できない状況にある。80 にもなる親御さんが息子さんを引っ張ってお医者さんに連れていくなるとはとても不可能なことなんです。そんなことでもう少し市の中の各部署が連携して動いていただくと非常にありがたいなという風に日頃思っておりました。一応、南では乳幼児から高齢者までの福祉関係の方たちが全部集まりましてこの地域の福祉課題の解決に向けてプロジェクトを立ち上げたんですね。地区協議会にバックになっていた

いて立ち上げましたので、是非、全市に拡げていきたいなという気持ちもあるんですけども、市の方たちも横断的に一緒にやっていただければなとつくづく感じました。よろしく願いいたします。

会 長：貴重なご意見、ありがとうございます。総合相談であるとか包括的な支援というのは、私もここ 7～8 年いろんな地域で実験的にお願いしてモデル的にやってきました。日野市、狛江市、東北では山形県鶴岡市でそれなりの成果を上げておりますし、全国の先進的な事例も調べました。それで、課題は町田市は人口 40 万人というかなり規模が大きい行政である、市役所の中も福祉以外にも含めてかなり規模が大きい、どうしても行政の方は三年に 1 回異動がありますから、どう総合相談なり包括的な支援体制を町田市の行政の中で恒常的に発展的に構築していくか、これもおっしゃったように非常に重要なので、一つ今回非常に大きなポイントになるだろうというところで、私なりにご意見を出させていただこうと思っておりますけれども、皆さんからも是非町田市の状況にあったご意見をいただければなと思っております。

委 員：第 4 次計画を策定するにあたって以前にも増して地域からの意見を吸い上げてくださったり、またアンケートも丁寧に個人がどのような状況で暮らしてらっしゃるかを吸い上げて計画を策定しようとしていることは非常にいいなと思っております。後はそのアンケートからもありますように地域別 10 地区の特徴というのが本当に明確に見えている中で実は私は鶴川地区の地区協議会の事務局長をやらせてもらっているところもあって、地区協議会、市民協働推進課と色々と情報共有しながら進めてきたんですが、良いなと思っていたのは 10 地区の特徴、特性に合わせてそれぞれが自分たちで計画を立てて実行しているという点だったんです。そこにまたいろんな形でリンクをしておりましたが福祉総務課や社会福祉協議会と一緒に地区別懇談会をやってきて、地域住民としてはそれがオール町田の地域福祉計画は存在するものの 10 地区別地域福祉計画というものができていったらいいなと思っていましたし、そのように進んでいくのかなと勝手に想像していたところであったんです。というのも、繰り返しになりますが 10 地区それぞれ、これだけ広い面積でもありますし人口も多い中で特性があるというところとそれぞれの地区別懇談会を繰り返していく中でオール町田の計画があって、それを説明を受けても、先ほどもありましたけれど自分事としては捉えるというのが少し遠いというのか、そんなことがある中で私は鶴川在住で事業も主に鶴川でやらせていただいているんですが、鶴川はこういう特徴があって鶴川の人たちがこう思っていて、鶴川にこういう人材がいて、居場所があって、なので鶴川地区の福祉計画は、アンケートで情報を吸い上げていただいているんですが私ごととしてあなた自身が行動していくものですよ、ということになかなかかなりにくいということがあ

るんですけども、今回の第4次計画は特に市民協働推進課がすすめていた地域別の活動というものを統合して全部で町田市の福祉になっていくんだと思うんですが、どういふ方法がいいのかわかりませんがもう少し小さな単位で10地区別の福祉計画とでもいったものを策定までは難しいと思いますけど、捉えやすいもの、住民が自分が活動するベースになるようなものがあるとアンケートを取った意味がすごく出てくるでしょうし、地区別に懇談会を継続する意味もあるような気がするので、是非、せつかく市民協働推進課が10地区に地区協議会を設置し、それぞれが動き出しているの、全部まとめて福祉計画になってしまわないようにしてほしいというのが感想としてございました。あともう1点、自分自身も福祉情報を皆さんにお伝えしているつもりなんですけど、51.3%の方たちが情報提供が充実していないって言われているのが、それこそ私ごととして頑張っていかなくてはとと思っているところなんですけど、それこそ地区協議会での情報を皆さんと共有していければと思っております。安達委員もいらっしゃってますけれど、地域によっては回覧板が回されていないという状況があったりですとか、2月の後半から地域の方が集まるということが無くなっていますので、民生委員さんは最近集まり始めていますけれど、情報が入る人と情報が全然入らない人が出てきているので、ICTなんかも使ってということも視野に入れる必要があるんでしょうけれども、51.3%の人に福祉情報が入らない状況がさらに進んでしまっている状況なんじゃないかと思われるので、これもまた皆さんと計画の中に入れていけたらなと思っております。

会 長：私もちょっと気になっているところなんですけど、前回、地域別の計画を作ろうという構想があったんですけど、そこまで行かなかったというところなんですけども、そのあたり今回、社会福祉協議会の地域活動計画も関わってくるかなともちょっと思っております。多摩市では地域福祉推進委員会があるものですから、行政と社協が連携して10地区の計画を作ったんですね。この辺のところはどうですかね、そんなにまだ議論していないですね。

事務局：現行計画の中でも地区ごとの課題とか、資源とかまとめた方向性というものは実は地域の皆様にご協力いただきました、地区別懇談会の中で作らせていただいているというところがあります。毎年度ずつ地区活動計画という形で社会福祉協議会さんと共に更新させていただいているところではあるんですが、今回の策定にあたりましては今後検討を進めていくところなのかなとは、ご意見をいただきまして思っているところなんですけど地域版の複数年度の計画に関しては今後検討していきたいと思っております。

会 長：社会福祉協議会もこれから地区活動計画を策定の予定だと思いますから、今の事を併せてどうでしょうか。

委員：現状では地区別懇談会ということで、地域の必要な意見を聞いてそれを地域自らが解決するという行動をとっておりました。その中で先ほど紹介にありました鶴川地区社会福祉協議会ですとか相原の人材バンク、それが地区の中から新たに生まれてくる、という状況を市と同様に評価していて、ただ、聞くだけ喋るだけでいいのかというところの脱却はしていかなければならないという認識は持っております。

委員：町田市の地域福祉計画を策定するにあたって、地域と地区の表現について、整理、定義しているところなんですけれども、10地区全部をあわせて地域と言っているわけですがそれぞれの地区でこの場で社会福祉協議会に全部というのはいかがなものかな、福祉総務課、市民協働推進課によく考えてもらった方がいいんですけど、町田市社会福祉協議会の地区福祉活動計画というのが、地域別福祉活動計画にしていきましょうよということなのであればそこはそこでまた違うのかな、と思いますがそれは社協に押し付けすぎじゃないかなというのがあったりしますし、何かこれ10年間っていうスパンなんですよ、地域に住んでる人が自分の身近なところで自分ごととしてとらえて居場所を作っていくまいとかコミュニティを作っていくまいって、90%の人がなんかやりますよって言っているのは、それは割と近くのことであって、地区社協とか作る时候にも議論になったんですけど、地域ってやっぱり中学校区なんじゃないのというのがあって、でもまあしょうがない、全部鶴川ということでやっていってみようか、なんかそこで細分化してって森委員、増子委員と鶴川の地区社協をやっているんですけども鶴川地区社協の活動計画って鶴川の皆さんからのアンケート調査だったり、そこを受けて具体的になんだけど、その種の話題がオール町田の福祉計画になっていく方向性と、地域と家庭をつないでいく、家庭から地域という流れがあるのであればオール町田の活動計画を意識している理解している地域住民がさらに地域特性をプラスして、自ら行動する範囲の計画を立てていくっていうこともないと、我が事としてとらえてやるっていうことが、このレベルの計画書が自分のところに届いててもじゃあ何しようって見えてこないっていうところがあるから、そこは方向性だけでも入れ込んでおいてもらえると捉えやすいかもしれないと思いました。

会長：事務局と検討させていただいて、特に町田はエリアの問題ですね、鶴川のような人口80,000人といえば大都市ですよ、相原のように15,000人、10地区と言っても本当に多様なんですよ、地域ごとにいろんな課題があるでしょうし、あった方が大事だと私は思いますし、社会福祉協議会に全てというのではなくて、行政と社協が連動しながら地区ごとの計画を作っていくっていうのが大事な視点でしょうから、次回また検討していきたいと思います。大事なご指摘ありがとうございます。

委員：障がい福祉の視点から2つ素晴らしいと思った点と、2つ心配なところを述べさせていただきます。資料7の11頁課題のエとオですけれども、先ずエの方に「必要な人に必要なサービスをつなげるための体制づくり」を課題としてきちんと表示されたということは障がい福祉の方からするとすごくありがたいことで、町田市の障がい者自立支援協議会っていうのが町田市においては施策推進協議会が担うという状況の中で3年に1回今後施策に関して意見を述べることはあるんですけど、日常的な困りごとを解決していく機能としては非常に脆弱でそのところはずっと課題だよなってなっていた状況の中で次の地域福祉計画の中で障がい福祉の方からすると必要な人に必要なサービスをつなげるための仕組みというのは正に自立支援協議会が日常的な課題を解決していく仕組みにつなげていく、また解決を目指していくっていうところにスポットを当てていくことになるだろうという期待がとても持てることになるので、是非私たちも一緒になって作っていきなと思った素敵だな素晴らしいなって思ったのが一つ、そしてオの「災害時における一人一人の命を守る地域づくり」の一番最後の二行目に書いてありますけれども困難な高齢者や障がい者というところから、避難所に今行かないっていうことがあります。アンケートを我が団体で取ったんですけども、行っても、却って厳しい、また行くツールが無い。だから結局車の中で過ごすことになっちゃうとか色々な理由があって避難所に行かないよっていう結果が回収したアンケートの半分近くになって、これは命に関わることでじゃあどうしようかって言ったときに個の特徴が障がいが多様なので様々であって画一的にはいかない。それで色々な個の特徴にあった合理的な配慮をできるようにどう避難のあり方を検討していくかということが課題ですね、と明記していただいているということは中々防災計画の方が保護者側の方で細かいことを言っても色々な今の防災計画があつてという話になりまして、やっぱり個に配慮した視点が盛り込まれるようなきっかけにこの計画がなっていくということは非常に期待したいなというふうに思っているところで、今、そういうような点で評価できる課題意識が明記されているなというところを述べたんですけども、期待が持てるだけに実際できるのかしらって進捗の管理とかそここのところはこの場では話さないんですということであれば、そうですかということなんですけれども、全体の地域福祉計画では管理委員会みたいなのがその後できて、進捗状況を時々確認するなんて仕組みがあつたかと思うんです。もし差し支えなければこの理念計画がどういう風に具体的に動いて進捗管理をされていくのかっていうところも聞きたいな、というところが一つあります。それとホッとできるっていうホッとって言うのがですね、先ほどの資料7の12頁で3つの意味で使っているんですよ、で、これはわかりにくいですよ。ホッとって熱いって言う意味でもあとホッとかないとかダジ

ャレのレベルでだけでも今日配られたまちだ未来づくりビジョン 2040 基本構
想素案の 12 頁では誰もがホッとできるまちっていうのがあって、そこは丁寧に
安心してきてってそういう意味なんだなって分かるわけですね、それをわざ
わざわかりにくくするような解釈ができちゃうような表現は控えた方がいいん
じゃないかなと言うところで、親しみやすさとかキャッチフレーズなんていう
のは固いこと言わないでっていう事であればわかるんですけど、混乱しない
ような使い方というのを配慮した方がいいのかというのがちょっと心配かなと
思いました。

事務局：この計画を今後どのように進捗管理していくかっていうのは審議会の中でしっ
かり計画の中に位置づけていきたいと思っていますので、是非よろしく願い
いたします。

会 長：社会福祉法の中でも P D C A サイクルに関しては言われていますし、私個人は
審議会を常設化した方が良いのではないかと考えています。狛江市は市民福祉
推進委員会をしていますし、条例にしているんですね。ただそこは大きな話に
なりますので町田市も人口規模でいうと重要な会議体になっていると思います
ので事務局と進めていただきたいと思います。ホッとプランの名称については
確かにご指摘のとおりで、ホッとするっていうところが一番大事でしょうから
それで進めた方がいいでしょうね、ありがたいご指摘ありがとうございます
。お時間が足りなくなってきましたしまして、事務局から皆さんにお願いし
たいことがあるということですのでよろしいでしょうか。では、次回のスケジュール
とあわせて、お願いします。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局 資料 9 説明)

会 長：その他で事務局の方からお願いします。

4. その他

事務局：今回は骨子案の審議となります。町田市では、2019 年度から市の上位計画
「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」における「なりたい未来」の姿を
共有するため、策定段階からタウンミーティングなどで市民の皆様からご意見
をいただいています。地域福祉においても 2040 年の「なりたい未来」の姿を
描くため、次回の審議会までに委員の皆様にもご意見をいただきたいと思いま
す。ご意見をいただく方法は、本日の議事録の確認と併せましてお知らせさ
せていただきます。次回の審議会の予定ですが、開催は 11 月頃を予定してあり
ます。また追ってご通知させていただきます。本日は遅くまでのご審議ありが
とうございました。

会 長：皆様のご意見ですが、9 月中ぐらいにいただく形でよろしいでしょうか。今

回は情報量が多かったのもう少しご意見をいただきましたかったのですがそれぞれのお立場で是非ご意見をいただきたいと思います。医師会の委員さんもいらしてですが、日本はこれから多死社会になっていく、超高齢社会ですが75歳以上の後期高齢者の方が多くなって来るんですね、どう死を迎えるのか、病院で迎えるのか、在宅なのか、身寄りが無い高齢者の方、民生委員さんにご存じでしょうし、相原でもありましたが孤独死をした場合、早期に発見して対応する必要があります。また、2040年に人口40万人という推計がありますが、社会移動はありますが、町田市は決して少子化をクリアしてないんですよね、低いんですね、例えば病児保育も2つですね、病後児はありますけれども、八王子も2つなんですね、島根県の邑南町は人口1万人で2箇所あるんですね、本当に人口40万人を達成するには私個人は社会移動だけでは厳しいと思いますね。このコロナで少子化はもっと進むと思います。結婚式自体も難しいですし、非常に不安も高まりますね。大学のゼミ生も調べてくれてますけれども、町田市は子育て施策、非常に頑張ってください。まだまだ少子化は厳しいと思います。皆さんの方が町田の事は詳しいと思いますので、地域福祉計画に入れてほしいこと、それぞれのお立場でご意見をいただければと思います。長時間お時間をいただきましたけれども、コロナと熱中症とダブルで気を付けていただければと思います。次回もよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

5. 閉会